

(社) 日本原子力学会  
第77回倫理委員会議事要旨

日 時 平成 26 年 3 月 12 日 (水) 13:30～17:00  
場 所 日本原子力学会 事務局会議室  
出席者 宮越副委員長、作田幹事、内山委員、宇奈手委員、北村委員、関村委員、  
辻委員、名倉委員、福家委員  
柴田理事 (10名：委員名簿順)

配布資料

- 資料77-1 第76回倫理委員会議事要旨 (案)
- 資料77-2 第17回倫理研究会報告書 (案)
- 資料77-3(1) 倫理委員会の取り組むべき事項に関する考察
- 資料77-3(2) 米国での活動
- 資料77-3(3) U.S.NRC Safety Culture
- 資料77-4 日本原子力学会倫理規程の全面改訂について

議事

1. 資料 77-1 により、前回議事要旨 (案) を確認し、了承された。
2. 資料 77-2 により、第 17 回倫理研究会報告書 (案) について、名倉委員から説明があった。今後、微修正を行い、倫理委員会ホームページに掲載することとした。
3. 資料 77-3(1)～(3)により、第 17 回倫理研究会のフォローとして、欧米での安全文化醸成活動などについて、宇奈手委員から説明があった。安全文化醸成活動の見える化が必要、またどう評価するのかを示さないといけない、事故は学ぶという視点で安全文化とのつながりを考える必要があるなどの多数の意見が出され、議論した。今後、倫理と安全文化を重要テーマとして検討していくこととした。
4. 資料77-4により、倫理規程の見直し案について、宮越副委員長から説明があった。使命、責任より、行動のイメージを含んでいる「責務」がよいなど、いくつかの修正案が出された。宮越副委員長から最終コメント要請のメールを発信し、1週間以内に各委員が回答することとした。また、解説案については、以下のとおり分担を決め、修正案を1週間以内に宮越副委員長に回答することとした。①名倉、②作田、③関村、④宮越、⑤作田、⑥内山、⑦福家・辻、⑧宇奈手、⑨⑩大場 (敬称略)。
5. その他
  - (1) 平野委員からの退任申し出を了承し、3月19日の理事会で柴田理事から報告することとした。
  - (2) 倫理委員会の今後の活動計画のうち、ケースブックなどの作成について議論した。東電福島事故の反省も含めた内容で新たな編集企画で取り組み、継続的に議論していくこととした。
6. 次回倫理委員会の日程については、作田幹事からの日程確認メールでもって調整することとした。

以上